



米国とロシアの関係に詳しい米ケイトー研究所上級研究員、アンドレイ・イラリオノフ氏(55)は「ロシア出身」に米大統領選後の両国関係の展望を聞いた。イラリオノフ氏は2000年から5年間、ブッシュ露大統領の経済顧問だったが、その後、政権に批判的な立場に転じている。

【ワシントンで真野森作】

米ケイトー研究所上級研究員 イラリオノフ氏（露大統領元顧問）

民主党政候補のヒラリー・クリントン前国務長官(68)が当選した場合、オバマ大統領の路線を継承つつ、対ロシアでは今より多少、強硬になる可能性がある。クリントン氏は国務長官時代にブッシュ氏と面会したが、両者の関係は良好とはいえない。ウクライナ危機を受けた対露制裁は当然、継続される。

一方、共和党政候補のドナルド・トランプ氏(70)はブッシュ氏に対する肯定的発言を繰り返してきただけでなく、側近にはロシアの大富豪や企業から融資を

受けた人々が少なからずいる。トランプ氏自身も、巨額のロシ アビジネスに参画していたとの証言が最近、報道された。

問題はトランプ氏が国際政治についてほぼ無知でありながら、恐ろしいほど野心的である点だ。もし大統領になれば、米国の对外関係や北大西洋条約機構(NATO)、日米同盟など

が、ソ連崩壊後の世界を修正し、ロシアの影響圏を拡大することが狙いだ。新しい米大統領が、米国を「世界の安全保障の番人」として機能させるかどうかで事態は大きく左右される。08年のジョージア(グルジア)紛争に際し、当時のブッシュ米政権は米艦隊を黒海に派遣してジョージアの主権を守った。一方、オバマ政権は14年のクリミア編入やウクライナ東部紛争について「武力介入しない」と明言し、ロシアの行動を許してしまった。

露影響力 次期米大統領が鍵

The Mainichi

9.10.2016

